

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 28 週 2026 年 7 月 6 日 ~ 7 月 12 日

今週のコメント

南丹保健所管内では、

手足口病が警報レベル継続中です。
ヘルパンギーナの警報が発令されました。

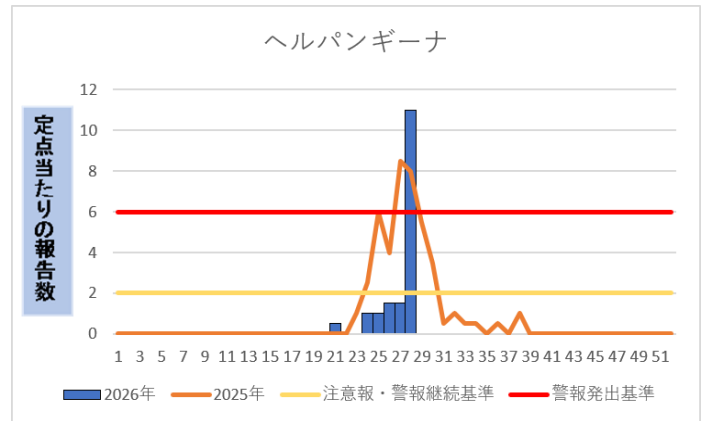
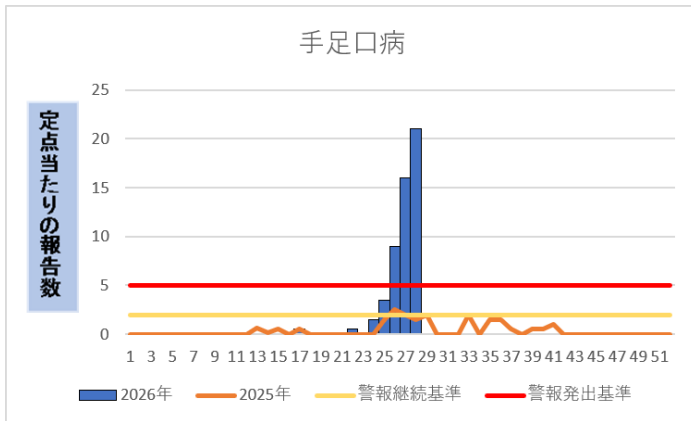
2026 年第 28 週の報告です。

○手足口病の定点あたりの報告数は、南丹 21.0(前週 16.0)、京都府 11.23(前週 9.27)となっています。

○ヘルパンギーナの定点あたり報告数は、南丹 11.0(前週 1.5)、京都府 3.18(前週 2.27)となっています。

○感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 1.5(前週 8.0)、京都府 3.95(前週 4.35)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。

2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

南丹保健所管内で、ヘルパンギーナの警報が発令されました！

ヘルパンギーナとは…

乳幼児を中心に、主に夏に流行する感染症です。

症状は、感染してから 2～4 日後に、突発の発熱に続いて、喉に痛みと水泡が現れます。発熱は 1～3 日続き、食欲不振、全身のだるさ、頭痛などを引き起こします。2～3 日以内に回復することが多いですが、合併症として、熱性けいれんや脱水症、髄膜炎、心筋炎などを引き起こすこともあり注意が必要です。

感染経路は、主に経口感染、接触感染、飛まつ感染です。急性期には、のどからウイルスが排泄されるため、咳をした時の飛まつにより感染します。また、急性期から回復期(発症後 2～4 週間程度)にかけて、便からウイルスが排せつされるため、便がついたおむつや下着などに触れた後は、しっかり手洗いをしてください。

予防には、日頃からの“手洗い、うがい”が大切です。流水と石けんでしっかりと手洗いをしましょう。

ヘルパンギーナについてより詳しく知りたい方はこちらのページもご覧ください。

[ヘルパンギーナ\(厚生労働省\)](#)

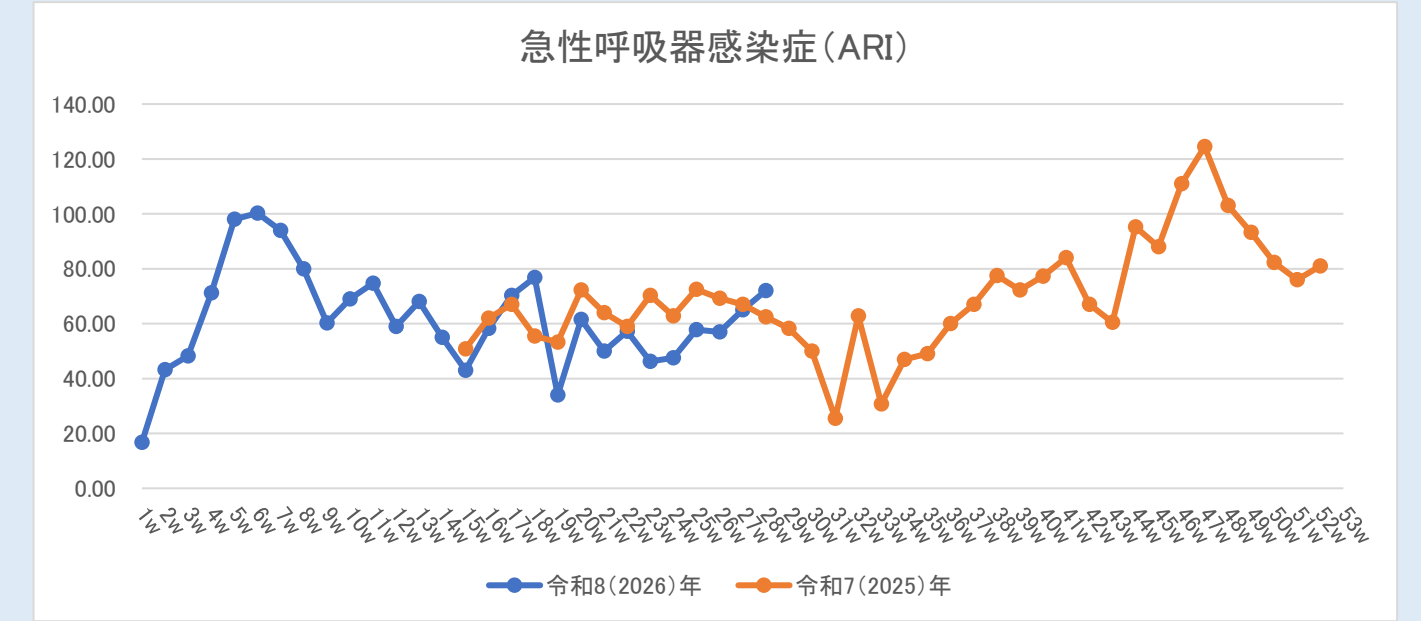
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R8.28w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	0.00	→	0.00
新型コロナウイルス感染症				0.50	→	0.50
RSウイルス感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		1.00	↗	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		1.00	↘	1.50
感染性胃腸炎	20	12		1.50	↘	8.00
水痘	2	1	1	0.50	→	0.50
手足口病	5	2		21.00	↗	16.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.50	→	0.50
ヘルパンギーナ	6	2		11.00	↗	1.50
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第28週報告数は288件(定点当たりの報告数72.00)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期:(原則)毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)